



写真1



写真2

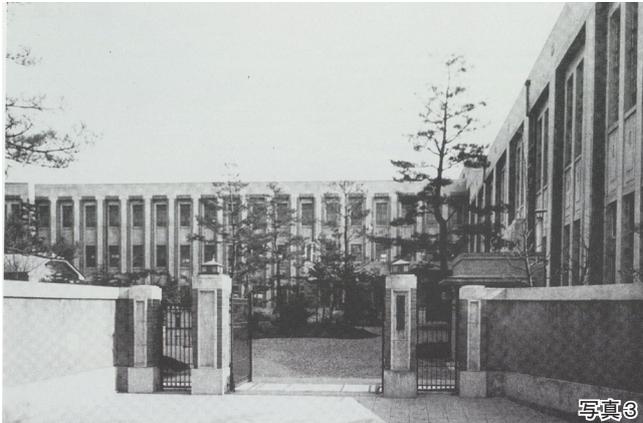


写真3

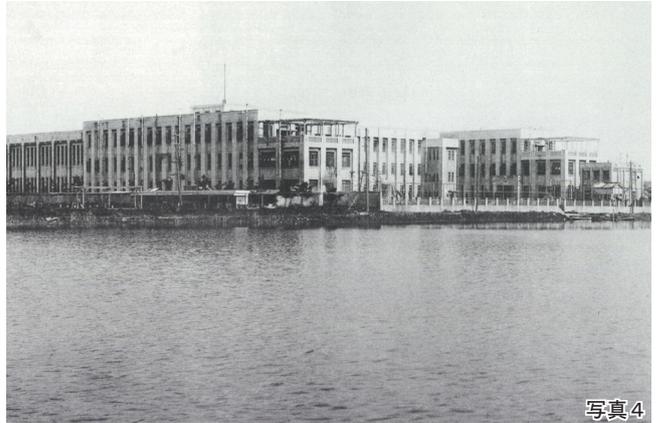


写真4

写真1：山田市郎兵衛。大阪府女子専門学校開校式にて（1925年）。写真2：大阪府女子専門学校（帝塚山学舎、1929年）。大阪市住吉区帝塚山にある万代池の西北にあった。写真3：帝塚山学舎の正門（1928年）。写真4：万代池より望む帝塚山学舎（1930年）。

大学の知を発掘！
043

山田市郎兵衛と大阪府女子専門学校—大阪公立大学の歴史②—

商工業都市大阪の発展は「民の力」の賜物であると言われるが、大阪に縁ある篤志家が私財を提供することで社会基盤の整備がなされたということは、とりわけ注目に値する。本来ならば、国や地方公共団体が十分担うべきものを民間の力に頼るといことは、逆に、官による教育・文化活動が軽視されていたということを意味するからである。大阪においても、大正期以降は官による整備が目につくようになるが、それでもやはり、民間篤志家の存在無くしては充実と呼ぶには程遠い状態であった。その中で、^{1851~1928}山田市郎兵衛（写真1）の存在は、大阪の社会基盤の整備、とりわけ教育振興の点で極めて大きな意味をもつ。

山田市郎兵衛は、行商人から身を興し、筆墨商の養家に入った後は、絵具・染料、工業薬品の販売で財を成し、さらに綿花貿易で大成功を取めた実業家である。「若年の折は丁稚小僧の走り歩きに追ひ使はれて十分な教育も受ず、今に目に一丁字なしといふ有様で不自由の上

なく従つて教育の必要を痛切に感じ」（1916（大正5）年9月12日付『大阪朝日新聞』夕刊）た山田は、私学の帝塚山学院小学校の設立発起人にも名を連ねるなど、終生、教育の振興に全力を尽くした。その山田から、帝塚山の敷地 6612㎡と建築費 35 万円が寄付されたことによって、1924（大正13）年に設立されたのが、大阪府女子専門学校（後の大阪女子大学）である。1924年の設立当時は、大阪府立阿倍野高等女学校を仮校舎としていたが、1925年に帝塚山学舎（大阪市住吉区帝塚山町）が完成し教育・研究が行われた（写真2～9）。

なお、大阪府女子専門学校の設立にあたっては、行政と議会との間で、ある種思惑の違いが生じていたようである。当時の事情について元帝塚山学院長の森儀吉は「府では女子専門学校を建てたいと思うが、参事会や、府会がやかましく、この入学難の時代に中学校や女学校を先にすべきでないか、何を好んで全国を目標とする女専なんかこしらえるのかと攻撃する。しかし府としては大阪



大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い
お申込み時に「特定プロジェクトのために：⑨-3」を選択してください。
（⑨-3：1号館ミュージアム構想のために）

【お問い合わせ】 渉外企画課 TEL: 06-6967-1836
<https://www.omu.ac.jp/fund/>

編集発行
大阪公立大学 大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所
杉本キャンパス学術情報総合センター6階（大学史資料室）
Tel : 06-6605-3371 E-mail : gr-gakj-archives@omu.ac.jp



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10

写真5：創立時の国文研究室（1928年）。写真6：創立時の博物教室での授業風景（1928年）。写真7：創立時の授業風景（1927年）。写真8：戦前の校友会活動の様子。写真9：大阪女子大学（帝塚山学舎、1960年）。写真10：大阪女子大学（大仙学舎、撮影年不明）。1976年に堺市大仙町の大仙古墳の西に移転した。写真1～10は、『大阪女子大学 70年の歩み』（70年史編集委員会編集、1994年）から転載。

に女子教育の最高学府の一つ位は是非建てたい」（森磯吉「教育功労者 山田二郎兵衛翁」〔高橋彌次郎編『斯の人を』関西経済連合会、1968年〕）という感じであったと回想している。この府の熱意に応えた人物こそ山田本人であるが、彼自身は当初、帝塚山学院中学校新設のために私財を用意していたらしい。それを府の方へ寄付するよう、府側の担当者が半ば強引に進めていったようで、結果として帝塚山学院中学校の設立は頓挫してしまう。

それでも、教育の重要性を誰よりも強く感じた篤志家、山田の蒔いた種自体は大阪の土壌に強く根付き、大阪府女子専門学校は、戦後、大阪女子大学へと継承され

（1949年）、1976年に大仙学舎（堺市大仙町）に移転した（写真10）。さらには大阪府立大学との統合（2005年）を受け、大阪公立大学（2022年）へとつながっていく。森の回想によれば、山田の想いは「大戦でもうけた人達は大抵吐き出さされてしまったのに、我々だけが、元の富をそのままじつと抱いている。しかしその富というもの結局は人さまからもうけさせてもらつたものである。これは何か人のため世のために使わなければならない。」（森1968）というものであったという。そうした想いの実現こそ、本当の意味での「民の力」であると言えよう。

（大学史資料室・国際基幹教育機構 山東 功）



資料室だより

◆大学史資料室では「大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER」を発行しています。大阪公立大学の貴重な学術資料や大学の歴史を紹介します。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140周年展+大学史資料館（大学博物館）設立準備 NEWS LETTER」の後継紙であり、「大学の知を発掘！」の番号を引き継いでいます。両紙とも大阪公立大学 大学史資料室のホームページ、図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→杉本キャンパス 学術情報総合センター 6階 大学史資料室

Tel：06-6605-3371